

NIEを活用した新聞に親しむための実践

延岡市立東海中学校
教諭 矢野 真生

1 はじめに

延岡市街地の北東部に位置する本校は、東海小、東海東小、川島小、港小の4校より進学してくる生徒数446人の学校である。また部活動の関係で校区外から通学する生徒もいる。現在15学級あり（特別支援学級2クラス含む）、活気あふれる部活動も盛んな学校である。鉄鋼業や製造業も盛んな地区であり、延岡市街の北の玄関口である。西南戦争の激戦地「和田越」や官軍の本陣となった檜山も校区内にある。



2 NIE実践内容

(1) 学校としての取組

・新聞についてはNIEの実践校として配付される新聞2部を私が所属する1学年で活用することにした。4学級あるので、2学級ずつ1日おきに配付する形式をとった。

・毎朝、職員室前の学級用の棚に新聞を入れて、各学級の担当が朝の会後に取りに来ることとした。



【職員

室前の学級用の棚】

・延岡市では全小中学校において「全ての教室に新聞を」活動が行われている。つまり全小中学校の全学級に学期ごとで同じ全国紙及び宮崎日日新聞が無償で配付されている。



(2) 実践事例

① 日常的な新聞記事の掲示

ア 新聞掲示コーナー

本校では教頭が主な新聞記事をほぼ毎日、学年ごとにフロアで掲示している。



イ



【新聞記事の掲示】

気になるニュースを掲示板に資料を加



えて掲示

1 学年では、学年掲示板の中に N I E コーナーを設置して、特に 話題になったニュースを掲示したり、それに関連した補助資料を作成して掲示したりした。生徒はまだ新聞を読むための基本的な知識が不足しているので、教科の内容とも関連付けながら、補助資料を作成し、生徒の興味や関心を高められる一助とした。

【1 学

アメリカ大統領・下院選挙

	大統領	共和党	民主党	その他
1988年11月	ブッシュ (父)	182	253	0
1990年11月		167	267	1
1992年11月	クリントン	176	258	1
1994年11月		230	204	1
1996年11月		228	206	1
1998年11月		223	211	1
2000年11月	ブッシュ (息子)	221	212	2
2002年11月		229	205	1
2004年11月		232	202	1
2006年11月		202	233	0
2008年11月	オバマ	178	257	0
2010年11月		242	193	0
2012年11月		234	201	0
2014年11月		245	190	0
2016年11月	トランプ	241	195	0
2018年11月		200	234	1

※アメリカは大統領制なので、大統領選挙と下院選挙は別である（日本やイギリスのような院制内閣制ではない）。上の図からもわかるように、各政権後半や晩年は下院野党（少数派）で大統領は政権を動かす立場ができてしまっている。当然でも選挙は政党を失ふように選挙では野党の候補に入れる傾向がある。



年の新聞記事掲示】

【補助掲示資料】

(左:アメリカ下院選挙)

(右:EU加盟国)

ける新聞の活用
での活用

② 授業にお
ア 社会科

①以外にも特に大きなニュースなどについては、授業でも冒頭で触れるようにしている。朝の準備段階で、パソコンに取り込み、プレゼンテーションソフトで紹介している。以下は今年度に

に紹介した記事である。

日付	新聞社	内容
6月13日(水)	朝日新聞	米朝初の首脳会談
6月25日(月)	夕刊デイリー	琴恵光幕内昇進 県内44年、延岡51年ぶり
7月10日(火)	宮崎日日新聞	西日本豪雨死者126名・琴恵光幕内初土俵
9月7日(金)	宮崎日日新聞	北海道震度7
10月15日(月)	毎日新聞	消費増税来年10月実施
11月20日(火)	読売新聞	日産ゴーン会長逮捕
11月30日(金)	読売新聞	秋篠宮さま53歳 大嘗祭への公費支出疑問視
12月27日(木)	宮崎日日新聞	政府 IWCに脱退通告

イ 社会科で新聞を活用する際の問題点

学校教育の活動の中で社会科は特に新聞活用しやすい教科だと思われるのではないだろうか。数学や英語などと比較すると確かにそうではあるかもしれない。しかし、以下のように、授業での活用が難しい点もある。

- 授業内容と時事ニュースのタイミングが合わない。
- 公民的分野（3年）は政治・経済などニュースが多いが、地理・歴史的分野は少ない。
- 新聞も一つの論調、主張であるので、教える側のバランス感覚（必ず異なる意見などを紹介する）や話題を選択すること（できれば葛藤するような問題）が必要である。

ウ 社会科以外の教科での活用

1月に職員に対して新聞の活用についてのアンケートを行った。以下のような場面で活用したことがあるかを尋ねたところ、全ての項目で活用が見られた。また、各教科でほぼ活用がさ

れて

いた。

職員アンケート結果

各教科の授業で活用した	○
道徳の時間の資料として活用した	○
総合的な学習の時間で活用した	○
学級活動の時間で活用した	○
新聞記事の掲示コーナーを設けた	○
朝の会や帰りの会で活用した	○
(その他) 給食終了後の空いた時間に紹介 放送で新聞の見出しを毎日紹介している	

国語	2
社会	3
数学	0
理科	2
音楽	1
美術	1
保健体育	2
技術・家庭	2
英語	2

③ 学級で新聞を活用した取組

- ・朝の会や帰りの会における「1分間スピーチ」の題材としての活用と教室掲示

記 次のような取組を行っているクラスもある。出席番号順に教室にある用紙をとって新聞から
事を選んで切り抜き、読んだ感想を200字程度で書いてくる。そして、
それを主に帰りの会で①どんな記事か②感想を発表する。それに対して
他の生徒が知っていることや関連することを発表し合う。



④ 新聞コラムの感想を書く取組

・宮崎日日新聞社紙面関連委員会からの「教育連載における生徒の感想提供お願い」12月分において、1学年4学級全員に週末の課題として読んで感想を書いてくるように指示をした。委員会からの指定通り事前に130字程度と通告はしていたが、それを上回るような長文の感想を書いてくる生徒もおり、また提出率も高く、その中から選定するのに苦労するほどであった。以下が事務局に送付した感想である。※印は実際に後日、新聞で【あるクラスの掲示】紹介された感想である。

教育通年企画「14歳の君へーわたしたちの授業」 昆虫学者 養老孟司氏

私は記事を読んで二つのことが印象に残っている。一つ目は何でも基礎が大事だということだ。何も知らないとも何もできない、一つ一つのことを知ってそのことについて考える、そこから学んでいくということだ。二つ目は自分で考えることだ。私も自分で調べたことは忘れないので、これからも自分で考えることを大切にしたい。 1年4組 女子

私には今好きなことがある。陸上をすることだ。養老さんは徹夜してでも昆虫採集をしているのはすごいと思った。私ももっと陸上に集中していきたい。私は今部活以外で外に出る機会がないので、もっと自然に触れようと思った。これからはもっとチャレンジをしていこうと思った。 1年4組 女子

私はあまり一つのことを長期間するということがない。すぐにあきらめてしまい、好きなことがあまりない。ですが、好きだと徹夜してでもやる、嫌なものだつて覚えると養老さんはおっしゃっている。私もそういうものを見つけていけるように、チャレンジをしていきたい。 1年3組 女子

僕は数学の問題の解き方をすぐ忘れてしまう。それは自分で考えようとしていないからなんだ、とこの記事を読んで気づいた。人に任せているだけじゃ学力は伸びないと感じた。今後、僕は自分で物事を考えて、行動にうつすことを習慣づけて、将来に役立てたいと思う。 1年3組 男子※

私が一番印象に残ったのは「自分の頭で考える習慣を付ける」という言葉だ。私は普段、計算や難しい言葉、様々な疑問など、自分で考えず、スマートフ

オンや電卓などに頼ってしまいがちだ。でもそうやって簡単に出てきた言葉を覚えられるかというそうではない。やはり自分で考えるということが大切だと思った。 1年3組 女子

この文章を読み、何でもチャレンジしたいと思った。自分でできることはやらないといけない。自分の頭で考えないといけないと思った。私は悩んだら、簡単な方を選びたいと思うが、難しい方にも少しずつチャレンジしたい。これからも自分が楽しいと思うことを続けていきたい。 1年2組 女子

自分の好きなことは何だろう。まじめに取り組み、時間を忘れるくらい好きなことはなんだろう、と考えた。考えるが特にはない。私が時間を忘れるくらい楽しいことは友達と遊んでいるときくらいだ。私も夢中になれることを中学生の間に見つけて、それを将来の仕事につなげていけたらと思った。

1年2組 女子※

あまり自分で考えたことがないことでも、この記事を読むと「確かにそう思うな」と納得する部分が多々あった。自分の頭で考える、この一つの題材から様々な観点に分けて、その一つの観点をくわしく説明されているので、すごく分かりやすいと感じた。 1年2組 女子

私は「人は好きなことしかまじめにしない」というところに共感した。たしかに嫌いな教科の勉強はあまり進まないが、好きな読書は自分からする。実は体験していて、こういうことだろうと思った。私は人間関係が難しいと思った。けんかをして、言い過ぎると元に戻らなくなるのと同じだと思った。

1年2組 女子

僕は虫があまり好きではない。しかしこの養老さんがおっしゃっていることはよく分かった。部活動は好きなことだからこそまじめにやって、好きなことだからこそやり続け、その習慣がいつかは必ず役に立つと僕は思った。この記事を読み、僕は「自分で自分の世界を開く」ということを強く感じた。

1年2組 男子

私はこの記事を読んで考えることの必要性がよく分かった。人間は何事にも考えることが必要だ。考えて考えぬいた先に自分なりの一番の答えがあるのではないか。数学の問題では学ぶことが一つであっても、考え方を変えればまだ答えは見つかるはずだ。人生も同じで考え方一つで大きく変わってしまう。一度の人生をどれだけ楽しく生きるかは自分次第だということが分かった。 1年1組 女子

この記事を読んで思ったことは何事も自分たちで触れたり考えたり感じたりすることが大切であるということだ。そして好きなことを頑張ることも大事なかと思った。そして毎日の努力や日々のチャレンジで自分の世界を広げることや、他の人との関わり合い、人間関係などを知ることも大事なことと分かった。 1年1組 男子※

私は養老さんの文章を読んで、中学時代に自分で考える習慣をつけると、将来必ず役に立つということが分かった。学校などで悩むこともたくさんあるので、その時は難しい方にチャレンジしたいと思う。そして今の毎日の勉強も手抜きせずに取り組み、自分の土台を作りたい。 1年1組 女子

私がこの新聞記事を読んで心に残った言葉は「人は好きなことしかまじめにしない・好きなことを続ければひとりでは世界が広がる」だ。なぜなら、私の体験で言うと、ソフトボールをまじめに続けていると、少しずつだがうまくなってきたのでこのことだと思った。とてもいい新聞記事だと思った。

1年1組 女子

(3) 実践前後の変化・今後の課題

① アンケートによる生徒の意識の変化把握

1月中旬に全学年1クラスずつアンケートを実施した。昨年度と同じ質問内容で比較することとした。新聞が無料で配付されることについては肯定的な受け止めが昨年度より増加した。また32～36人の学級で半数の生徒が新聞に目を通すようになったことが分かった。また、「どこの内容をよく読むか」の問いについても、それぞれで増加傾向であることが分かった。

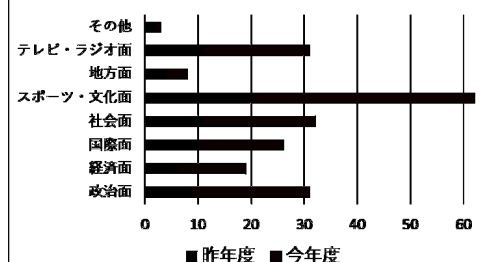
② 反省点や課題

実践内容のとおり、様々な改善点、発展させるべき点がある。まずは共通した取組を学年や教科でできるとよいと考える。社会科を例にするならば、情報の共有化や過去の新聞のストック化を円滑にし、学習内容に関連するニュースとリンクできるような工夫を模索できるのではないかと考える。

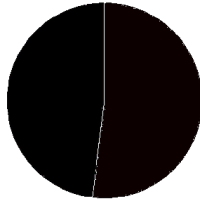
いずれにしても「新聞を読む」ことが、何につながるのか、これからの入試などへの対応力やメディア・リテラシーなども含めた啓発も必要だと感じた。

以上のようなことを念頭に来年度の活動につなげていきたいと考える。

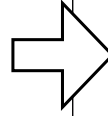
Q. どこの紙面をよく読みますか。



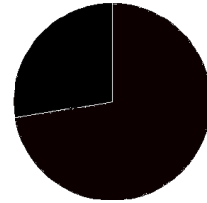
Q. 新聞が教室に届くことをどう思いますか。



■ 1 とても良いことだと思う ■ 2 特に何とも思わない

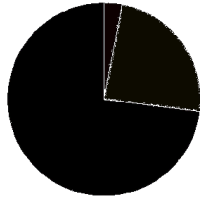


Q. 新聞が教室に届くことをどう思いますか。

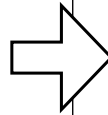


■ 1 とても良いことだと思う ■ 2 特に何とも思わない

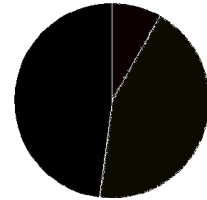
Q. 教室で新聞を読んでいますか。



■ 1 読んでいる ■ 2 とくとき読んでいる ■ 3 読んでいない



Q. 教室で新聞を読んでいますか。



■ 1 読んでいる ■ 2 とくとき読んでいる ■ 3 読んでいない